

令和3年度病虫害発生予報第12号

令和4年3月9日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病	—	平年並
		イネシンガレセンチュウ	平年並	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並	平年並
		黒星病	平年並	平年並
		ハダニ類	平年並	平年並
		カメムシ類	平年並	やや多い
野菜	ラッキョウ	白色疫病	—	平年並
		ネギハモグリバエ	平年並	やや多い

気象予報（抜粋）

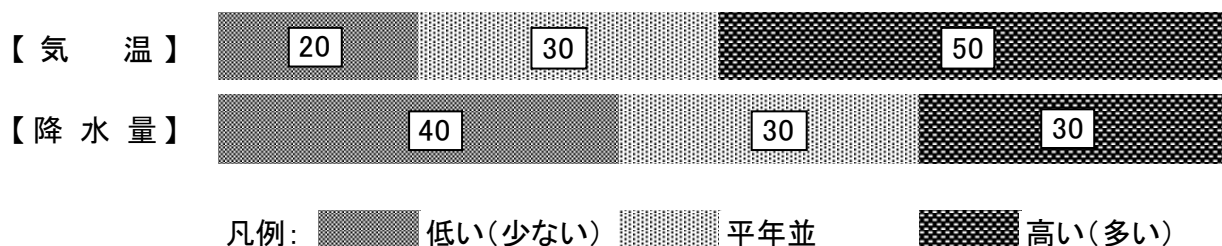
1か月予報（3月5日～4月4日：3月3日、広島地方气象台発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

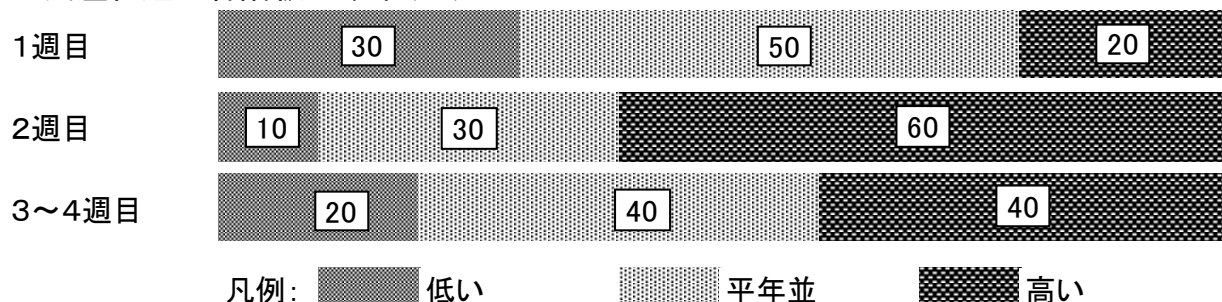
山陰では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



普通作物

[イ ネ]

1 ばか苗病（育苗期）

（1）予報の内容

発生量 平年並

（2）予報の根拠

前年の発生は平年並であり、本年用種子の保菌率は平年並と予想される。

（3）防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採種した籾は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。

エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）を行う際は、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりを持たせる。また、薬液の温度が10℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行う。原則として水の交換は行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシンガレセンチュウ

（1）予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

（2）予報の根拠

前年の本虫による葉先枯れ症状の発生はほとんど認められなかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

（3）防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。

エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

（1）予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

（2）予報の根拠

ア 令和3年11～12月に行った越冬菌密度調査の結果、短果枝の病芽率は平年に比べてやや低く、一年枝の病斑数は平年並であった。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発芽期までにトップジンMペースト原液による塗布作業を徹底して行う。2～3年生の側枝を中心に側枝全体をよく見てトップジンMペースト原液の塗布を行う。
- イ 3月中旬～4月（発芽期～開花前）になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになる。この時期に園内を2～3回見回り、腐れ芽を除去して園外に持ち出す。
- ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液などを散布する。さらに、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル）500倍液などを散布する。

2 黒星病

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 令和4年1～2月に行った越冬菌密度調査の結果、腋花芽の病芽率は平年に比べて低かった。
- イ 昨年の発生量はやや多く、越冬伝染源となる罹病落葉の量はやや多いと見込まれる。
- ウ 向こう1か月の気象予報から発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 4月中旬頃になると、花そう基部病斑が観察し易くなる。この時期に園内を見回り、発病花そうを除去して園外に持ち出す。
- イ 本病が発病した花そうのりん片脱落期は遅れる傾向があるので、花そう基部病斑を探す際によく観察する。
- ウ 薬剤は、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにアンビルフロアブル1,000倍液、交配終了後にチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル）500倍液などを散布する。

3 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬量は、平年並であった。
- イ 向こう1か月の気象予報から発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 枝、樹皮及び誘引なわ等に越冬成虫（あるいは越冬卵）が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため防除を徹底する。
- イ 薬剤は、3月中旬にハーベストオイル100倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日程度あける。
- ウ 開花前までにハダニ類の発生が認められた場合は、カネマイトフロアブルの1,500倍液などを単用で散布する。

4 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数（ベニヤ板トラップ、県下10地点調査）は、トラップあたり9.9頭（前年：8.1頭）と平年に比べてやや多く、春期の発生量はやや多いと考えられる。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期は平年並、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ 例年カメムシ類の発生が多い園では、4月以降、定期的にはほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。

野 菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬現在、県東部～中部の現地調査ほ場における本病の発生量は平年並である。

イ 本病は、降雪後の雪解け水や連続降雨により、発病が急速に広がりやすい。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の発生が認められる場合は、フォリオゴールド1，000倍液、ホライズンドライフロアブル1，000倍液などを展着剤を加用して茎葉にむらなく散布する。

イ 発病が認められない場合でも、2～3月の後期発生を予防するため、雪解け直後や連続降雨時の雨の止み間などに、フロンサイド水和剤1，000倍液などを展着剤を加用して散布する。

ウ 罹病株は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。

2 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬現在、現地調査ほ場における発生は認められていない。

イ 昨年秋期の発生量が多かったことから、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤はピリブ水和剤1，500倍液、プレバソフロアブル5の2，000倍液などを散布する。

[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、農林水産省の「農薬登録情報提供システム」から検索できます (<https://pesticide.maff.go.jp/>)。

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>



ホームページ2次元コード

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類など）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、御利用ください。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

(TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp)

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

(TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

(TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822)

※次回、令和4年度予報第1号の発表は4月6日（水）の予定です。

なお、予定日と実際の発表日が前後することがありますので、御注意ください。